

「資質・能力ベースによる教職課程の質保証に関する包括的調査」

調査の概要

◆課題認識

- ・初任者教員における授業力・教育力、保護者対応力、ICT等の活用力及び合理的配慮を必要とする児童生徒への対応力の不足、欠如が指摘されている。

◆調査研究の目的

- ・全国の教職課程における質保証・向上に係る多様な取組内容を把握し、新人教員の力量形成を実質化する教員養成課程のモデル化への示唆を得る。

◆調査研究の方法

- ・次の3つの視点に焦点化し、教職課程を有する全国の大学に対してのアンケート調査および訪問調査を実施する。
  - 資質・能力指標の開発・運用実態
  - FD関連の有効な取組の実施状況
  - 合理的配慮に関する教育課程上の工夫

◆調査研究大学

- ・教職課程を有する全国の大学
  - ＜アンケート調査(605機関)＞
  - ・10大学＜訪問調査＞

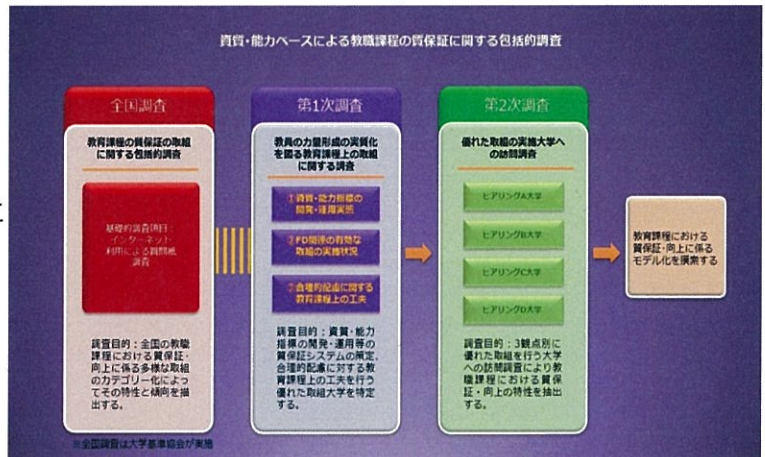
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

教職課程の質保証の取組、とりわけ教員の資質・能力の向上につながる教育課程の改善状況を包括的に把握するとともに、特に教員養成スタンダードの策定など教師の力量形成を図る仕組みと教育課程の体系化、FDに関わる評価方法と組織的な改善システムの有無、合理的配慮等の特別支援に関する教育課程上の特徴的な取組等の優れた大学の具体的事例を探り、今後の教職課程のモデル化に向けた提言を行うことを主眼とした調査を実施する。

◆成果

- ・資質・能力形成（教員としての力量形成）に係る資質・能力指標の開発・運用の実態把握により、より効果的な指標の策定・更新及びe-ポートフォリオなどの運用上の改善項目を抽出した。
- ・FDにおける授業評価ツールの項目の有効性を確認すること、また授業者の授業力向上の組織的対応と教員の業績評価の更新に関する知見を得た。
- ・学校教育における合理的配慮等の実施につながるためのシステムづくりや授業方法に関する力量を形成するための教育課程編成に関わる具体的改善点を整理した。



今後の課題

- ・継続的調査やテーマ別のシンポジウムなどを開催して教職課程における質保証・向上に係る特色ある取組の情報共有を図る必要性
- ・より広範なヒアリング調査により質保証・向上に係る取組のモデル化に向けた情報収集の必要性
- ・教職大学院化の展開を考慮して学部レベルの教職課程とそれに接続する大学院レベルの教職課程のあり方についての検討